

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4372401028 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 創友会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 慈幸苑 | | |
| 所在地 | 玉名市横島町横島2493番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年2月22日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年3月2日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた外平山の中腹に位置する慈幸苑は、有明海を一望出来、雲仙に沈む夕日の美しさが格別である。入居者様、ご家族様、職員を一つの家族と捉え、家庭的な雰囲気の中、お一人お一人との関わりを密に持ちそれぞれのペースに合わせお年寄りの”今”を大切にした支援を行っている。季節毎の行事も、苑内、苑外問わず盛りだくさんである。美しい花を見に手作り弁当持参で苑外に出かける。又、季節毎の多くの苑内行事も法人と一緒に楽しむ事ができる。暑さ、寒さを通して四季を感じ”生きてよかった”と思っていただけのホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、法人の入居者主体の精神を受け継ぎ、開所時より入居者の「今」に寄り添いながら、「今しか出来ない事」を家族や地域の力を借り、全力で支援している。天気の良い日は短時間でも庭やホーム周辺を散策し、体調をみながら入居者の行きたい場所に出かけている。家庭の延長としての日常を推し測り、紙オムツに頼らない生活が入居者の尊厳や自信を保持し、夕方からの入浴支援は日中の活動の輪を広げ、夜間帯の安眠へと繋がっている。遠く海や島々の雄大な景色を望むリビングで、入居者と職員は語らい、互いを思いやりながら日々を過ごしている。法人の福祉への情熱は新たな事業展開により更に拡充され、各々の施設が自信と誇りを持って運営しており、ホームにもよりよい刺激となっている。今後の活躍にも多いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフ一人一人が入所者と寄り添い自立支援を考えながらケアを行っている。理念は常に目に付く所へあり全スタッフが都度再確認できるようにしている。 | 開所時より理念を事務室に掲げ、職員は日々の業務開始時に確認し、心に留めながらケアに入っている。法人の入居者主体の基本方針は職員に浸透し、より家庭に近い支援を拡充させている。管理者は職員の入職時に理念について話し、疑問な点や気づきを遠慮なく声に出してもらい様指導している。 | 職員は常に家族のような思いをもって入居者に接する事を心がけている。ホームの取り組みは機会ある事に発信しているが、運営推進会議や家族会の中でも理念について啓発する事で、ホームの姿勢や支援のあり方について更に理解が深まるものと考えている。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 買い物に同行してもらったり、町の行事に参加されたりと交流あっている。又、施設へ踊りや歌の発表にて地域の方の来苑や小・中学生の福祉体験受け入れ等定期的に受け入れ行っている。 | 入居者は日常的にホーム周辺の散策を楽しみ、畑作業中の人々と気軽に会話を交わしている。近隣商店での食材の買い出しや、様々な町の行事(敬老会、文化祭、ほたるの夕べ)に出かけ地域の人々との交流の場が支援されている。市主催の花火大会には席が準備される等、地域の協力を得て夜間の外出も実現している。ボランティアの来苑や幼稚園児の踊りの披露、小、中、高、大学生の福祉体験や実習の受け入れ等を行い、人材育成にも力を入れている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて地域の方、行政・家族へ参加いただき、認知症の症状や研修参加の際は伝達講習等行っている。又、地域の方と行事等にて入所者の方が直接関われる機会を設けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度開催。行政・民生委員・社協・家族へ参加頂き、苑だよりにて日々の生活の報告、実際に入所者と触れ合ってもらい機会(レクやおやつ作りを設けその中で気付かれた事や意見を頂いている。 | 行政、社協、地域代表者、家族母体関係者等が参加し定期的に開催されている。年度末の最終会議で次年度に議題として取り上げたい内容を参加者が提案し、新年度の会議の中に取り入れている。介護保険の疑問や様々な施設の機能について担当者が説明し、文化祭への出品作品を入居者と共に作成したり手作り、おやつを一緒に楽しむ等、単なる話し合いに終わらず、入居者と会議参加者との交流の場も設定している。会議内容は家族会で紹介し共有している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議へ参加して頂き定期的な取り組みの報告ができています。又、不明な点等があれば相談し助言頂いています。 | 行政からの推進会議への参加時にホームの現状を伝え、電話での相談事に応じてもらう等、良好な関係継続を図っている。管理者は事故報告書の提出に役所を訪れ、認定調査時の立ち合いで入居者の現状を正確に伝えながら支援している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内での身体物事についての勉強会に加え、法人の方針である「鍵なし・眠剤なし・抑制なし」と周知徹底しケアにあたっている。 | ホーム内は常にオープンであり、法人の掲げる「鍵なし、眠剤なし、抑制なし」の心得がケアの中に活かされている。職員は外部研修や法人内の勉強会で身体拘束について学び、共通認識をもって入居者を支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | スタッフ内で、入所者1人1人の変化の観察に努め、変化があれば都度申し送りを行い発生の防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設内へ制度についての資料を設置している。又、ご家族より相談あった際は情報提供・各関係機関との連携を図っていく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時契約の際、重要事項説明書を一緒に確認し、十分理解・納得いただいた上で確認のサイン・押印頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会、面会時に意見を頂いている。遠方の家族へは電話連絡にて定期的な関わりを持ち信頼関係を築くよう努めている。 | 入居者が日々の生活の中で、自由に思いを発言出来る様な雰囲気作りが出来ており、出された意見や要望を個々の暮らしの中に反映している。推進会議や家族会、面会時に家族の意見や要望を収集し、入退院が続いた入居者を入院中も支え、本人、家族の「退院後もホームで暮らしたい」との要望に応えている。この一年、家族からの苦情等は寄せられておらず、逆に「もっと家族に頼んで下さい」と言った意見が出ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ホーム会議の開催、日々の申し送りにて管理者が各スタッフへ意見を聞きより良いケアが提供できるよう努めている。 | 母体での全体暮礼(月曜～金曜)には、ホーム職員が必ず参加し、その日の報告や翌日の予定等を伝達しながら、法人の協力を得て運営を展開している。職員はホーム会議や朝の申し送り、気づいた時に意見を出し合い、記録の方法を統一したり、退院後の入居者へ夜間の排泄支援を考慮し、空き室となっていたトイレ近くの部屋へ居室を移す等、改善が図られている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 希望休や病気、自己都合での勤務交替等スタッフ同士で協力しあいながらの勤務体制が取れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での勉強会の開催、施設外への研修への参加、参加後伝達を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 玉名郡市支部GH連絡会へ参加し定期的な交流、情報交換ができています。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に事前訪問を行い、本人の思いを聞き取り、本人の思いに添った形で支援できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前訪問にて意見の聞き取りを行い、意向を取り入れた支援を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人・ご家族の意向を確認しながら、その時に必要な支援をできるよう心がけている。Fa協力態勢も可能となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | GHを1つの家と促え、入所者・家族・スタッフ共に「家族」と日々過ごして頂いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | スタッフはご家族と、ご本人共に支援していく立場として、ご家族も「GHの一員」としての思いせで関係づくりを行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 同法人の特養へお友達や奥様がおられる入所者がおられ、定期的に面会へ行かれてはいる。又、ご友人のホームへの面会あり。 | 入居者にとって大切な家族との関係が途切れないよう、来訪の機会を支援し、家族も参加する日帰り旅行はホームの恒例となっている。又、法事や年末・年始の帰省、墓参を始め外食等に家族の協力が得られている。生け花を趣味にしてこられた方には、正月の飾りや日頃の生け花をお願いし、野菜作りや料理など特技や趣味を継続して支援している。地域の友達がシルバーカーを押して面会される事もある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席順の定期的な検討、人間関係の観察を行っている。あまり人の輪に入る事を好まない方へわ個別に言葉かけを行い皆さんと関わりを持てるような環境の設定を行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所移動後も面会に出掛けたり、又、家族の来苑もあっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | お1人お1人に寄り添い会話等で本人様の希望や思いを掴み望まれるくらしへ繋げるよう心掛けている。 | 日頃より入居者に寄り添うケアを心がけ、日常の会話の中や、表情から察知し思いや意向を確認している。毎朝の更衣や外出時の服装を入居者に選択してもらい、はりのある日常を支援している。家族の訪問も多く、入居者の思いを確認している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族より情報を頂きながらこれまでの生活とかけ離れない生活となるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来られる事、出来られない事を把握し出来られる部分を見極め力を発揮して頂くよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランを担当制とし、毎月評価を行っている。又、ホーム会議内での話し合い、法人よりアドバイスを頂き本人様の現状に合ったプランへとつなげている。 | 本人、家族の声をプランに盛り込み、担当職員の日頃の気づきを反映し立案している。日々のバイタルや食事、入浴、整容支援や面会等、個々の介護表とプランを一冊のファイルにまとめ、すり合わせながら支援している。入居者の現状を把握し、毎月評価しながら支援内容を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活日誌、ケース記録へ詳細な記入、ホーム会議を開催し情報共有しケアプラン評価に活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 他部署からの協力を頂き、その日の天候に応じ外出行事を行う等ニーズに応えられるよう努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町公民館で開催されている敬老会への参加、町文化協会主催の俳句大会への投稿、表彰式への出席も支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的に服用されておられる薬を頂く為の受診、ペースメーカー受診1名。歯科受診3名の方の支援している。 | 入居時にこれまでのかかりつけ医を継続して支援する事を伝えている。現在法人の協力病院を全員がかかりつけ医とし、医師の訪問日に合わせ法人まで散歩を兼ね定期診察に出かけている。熱発など症状によっては、居室で往診が行なわれている。又、専門科の受診については家族やホームでも柔軟に対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人NSとの医療連携体制が確立しており、身体状態報告している。又、緊急時の対応も体制を整えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 環境が変わる事により、不安や不穏となれらぬ様、病院へ顔をお出しすることもある。退院後もスタッフ間で情報を共有しケアに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | まず、看取りの書類に記入頂き、本人様の状態に応じ、ご家族とその都度話し合いを重ねている。本人様やご家族の望まれる最期が迎えられる様支援に取り組んでいる。 | 本人・家族の思いを大切に重度化・終末期支援に取り組む事をホームの方針とし、看取り介護についての同意書(事前確認書)の作成・記入が行なわれている。入居の長い方へは、随時家族との話し合いを行い、意向を確認している。又、法人内の勉強会に参加し、職員の質の向上を図っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎月、勉強会が開催されており知識、技術の向上を図っており外部講師による講習を受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回消防署立会いのもと、昼間・夜間想定し避難訓練を実施している。 | 年二回ホーム単独で総合訓練を実施している。訓練時でも大きな声を出して誘導する事等の指導を受け、次回に活かす事を職員間で確認している。備蓄や地震災害についても取り組みたい意向である。 | 出勤時にホーム回りの確認や喫煙所の管理も徹底されており、今後はその事をホーム日誌等の中に記入する事で意識付けに繋がると思われる。話し合われている地震災害や備蓄の実現にも期待したい。又、災害時の協力体制として、地域消防団との「地域協定書」が取り交わされており、今後は、地域消防団にホーム内を見てもらい、誘導時のアドバイス等を受ける事も一案と思われる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 失禁時には、他の方に分からない様小声へトイレ、又はお部屋にお誘いし早めに対応するよう努めている。入浴時などタオルをかけるなど配慮している。 | 方言を使用しながらも入居者を人生の先輩として敬った対応や、言葉使いで接する事を職員間で確認している。排泄時の失敗も周囲に気付かれぬよう、又、本人の尊厳を傷つけない言葉かけで誘導している。入室もノックや声かけにより了解を得て行なわれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | まずは、傾聴し尊重しつつ、本人様の答えやすいような場面を作り思いを伝えたり自己決定出来る支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人様の様子を伺いながら家事作業など、一緒に作業し、気持ち向かれぬ時は無理強いつけず時間を置き気持ちの向かれるよう場面作りをしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣不十分な時は、声掛け一緒に居室に行き選んで頂き、声掛け一部介助を行っている。 外出時の化粧のお手伝いは欠かさない。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立から切り込み、味付け、調理全般に関わってもらおう。菜園の野菜利用する時は収穫から手伝ってもらい収穫の喜び、旬の味を味わってもらおう。 | 入居者の好みを確認しながら献立を作成し、買い物や野菜の下ごしらえ・味付け・配膳・ホーム菜園の管理や収穫など入居者も多くの関わりを一緒に行っている。又、恒例となった地元ホテルでのケーキバイキングや、外食支援、行事食、地域の特産品を使用したおやつ作り(いちご大福・トマト饅頭など)は入居者の楽しみとなっている。訪問当日も、すり鉢を膝に置き胡麻をする入居者の姿や、職員も一緒に食事を摂りながら笑い声の響く食事風景が確認された。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の希望や今の状態に合わせ形態や量を個別に対応している。水分も湯のみ、コップと限らず飲み易い食器で提供するときもある。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、起床時、就寝時と口腔ケアの声掛けする。又、必要に応じ介助する。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 長時間排泄行為がない場合は、声掛けを行い気持ちよく排泄出来る工夫している。 | ホームは布パンツによる排泄支援を重視し、日中は自立や声かけによるトイレ支援に努め、夜間も布パンツで対応し、自立・見守り・ポータブルを個々に応じ支援している。ポータブルはその都度量を確認後洗浄を行い、気持ち良く使用できるように配慮している。布パンツの使用は尊厳や自立支援に繋がり、トイレトペーパーの残量や不足を確認し、職員に伝えられる方もおられるなどホームの日常が伝わってくる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 散歩と一緒に出かけたり、同法人の他事業所へ訪問し、一緒に体を動かす。食事ではきなこ牛乳を隔日に、又、ヨーグルトや繊維の多い食品の提供。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 夜間での入浴を実施しているが、早めの入浴、食事前の入浴を希望される場合はその都度実施している。 | 開所時から継続して支援している夜間入浴(5:30~21:30)をはじめ、日中の利用や1時間程の入浴など個別の希望に配慮しながらゆっくりとした支援を心がけている。入浴拒否の方も職員の温かいコミュニケーションの一言で現在はホームで入浴を楽しまれている。菖蒲や柑橘湯の取り入れや、夜間入浴の専任職員とも個々の状態を共有しながら安全な入浴支援に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 共同空間、和室でくつろがれたり、自分の好きな時間に居室で休まれている。夏冬では室温の調整を行っている。特に冬物は湯タンポも使用している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳や看護師からの諸注意を十分理解し、確認している。新しい薬の処方があった場合は詳細に記録に残している。服薬時の見守りは必ず行っている。必要時は手のひらに渡す。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 菜園での種まき、水かけから収穫。生け花を長い間楽しんでおられた方の為、スタッフ間で花を持ち寄り生けてもらっている。絵手紙教室の実施。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 戸外に外出されるときはスタッフ付き添いにて、散歩又は法人の車使用にて外出。季節的な外出(花見・花火大会・紅葉)など。年1回の家族会での日帰り旅行では貸切バスを利用し楽しんで頂いている。 | その日の天候でお弁当を準備し、花見に出かけたり、お茶・お菓子を持って近くの公園に散歩やいちご狩りに出かける等、日常的に季節を楽しむ外出支援が行なわれている。又、散髪の為の個別外出や、母体施設に入所の奥様の面会は天候によって日に2~3回、双方の職員が連携を図りながら継続して支援されている。地域の花火大会への夜間外出や、家族の協力による墓参や、恒例となった日帰り旅行は家族会の中でも旅行先が検討され、入居者・家族・職員の楽しみの行事になっている事が記録からも窺える。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人様の希望で所持しておられたり、事務所で預かっていたりしている。病院受診の際はスムーズに支払いが出来られる様支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を掛けたい思いがあられる時は家族に連絡し家族の方から掛けてもらっている。手紙の投函や返信のお渡し等お手伝いしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には利用者様に生けてもらった花や作品を展示している。 居間には季節毎の雑段、クリスマスツリーで季節を感じてもらっている。 | 入居者が日中の殆どを過ごすリビングは、ホームが高台に位置する為、家々や遠くに海を眺められる開放感のある空間である。段あがりの畳の間は季節の飾り物(ひな段等)を置いたり、入居者の休憩や洗濯物たたみスペースに利用されている。設置された仏壇の花は入居者と一緒には供えられている。廊下に貼られた小旅行の写真や習字の作品は入居者の励みにもなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビの前にソファー席があり、自由に座れるようになっている。和室に仏壇もあり、思うように過ごしてもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビや馴染みの家具を持ち込まれている。寝具も使い慣れておられる物を使用しておられる。 | 安全面に配慮した掃きだ窓が設けられ、採光や眺めの良い居室は、担当者によって衣替えが行なわれ、出来る方は自分で掃除をされている。各部屋に洗面台が備え付けられており、個々のペースで口腔ケアが実施されている。椅子・ローチェスト・テレビ等の馴染みの品の持ち込みや、家族の写真や習字の作品の掲示など居心地の良い部屋作りがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの表示、自室表札を利用し戸惑いなく移動出来るよう支援している。 | | |